

韓国総選挙とこれからの日韓関係

慶應義塾大学法学部教授 西野純也

- *進む尹大統領のレームダック化
- *停滞する保守再建の流れ
- *与党大敗の原因は何か
- *政権批判論だけで勝利した野党
- *注目される世代別政治志向の違い
- *分極化が加速する韓国の政治状況
- *元徴用工問題の解決も行き詰まる可能性
- *平坦でなくなる日韓関係
- *南北統一路線放棄した北朝鮮への対応
- *野党が最重視する検察改革について



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は慶應義塾大学法学部政治学科の教授をなさっています西野純也先生に来ていただきました。先生は慶應で東アジア研究所長、それから朝鮮半島研究センター長もなさっています。慶應ではこの会にも来ていただきました小此木先生のお弟子さんであります。先生は昔は毎週韓国に行くこともあったということなんです。最近でも月に1〜2回は韓国に行っているいろいろな方と話をし、そのお話をいろいろな役立てていらつしやるようです。

皆さんご存じのように韓国で4年に一度の総選挙が行われまして、昨日結果が出て、新聞紙面にいろいろな記事が出ておりますけれども、少数与党の形になりまして、現有114議席が

108という結果が出ております。これについて新聞紙面では大敗ということですが、先生がこの結果をどう見ていらつしやるのか今日は伺いたいと思います。韓国の国内の政治状況はご承知のように、日韓関係は最近は劇的に改善しておりますけれども、その関係にも非常に影響を与えますし、それから日韓米の関係にももちろん影響を与えます。それから、韓国の政治の裏側には北朝鮮の問題もありますので、その辺に今回の選挙の結果がどう影響を与えるのか。それから、尹大統領は任期がまだ3年残っておりますので、その間の仕事に今回の選挙結果がどう影響を与えるのか。皆さんも様々に関心がおありだと思いますので、今日は先生に選挙を踏まえて今後のことを読み解い